令和６年度　学校教育の努力点とその推進

Ⅰ　研究主題

進んで学びに向かう児童の育成
～多様な人との学び合いを通して～

Ⅱ　研究のねらい

昨年度の努力点によって、児童は課題に対して自分なりの選択を行い、解決に向かうことができるようになった。「個別最適な学び」に向かい教師側も様々な選択肢を提示した結果ともいえる。さらに、自分が選択した課題解決方法を振り返り、それが最適だったのかどうか考える児童の姿もあった。しかし、中には自分の選択が最適だったか振り返ることができない児童もいた。また、自分の選択が自分の中だけで完結してしまい、友達が何を選択してどのように解決したのか知ることがないまま学びを終える姿もあった。

令和６年度は、名古屋市が示した「ナゴヤ学びのコンパス」を踏まえ、努力点実践に取り組む。ナゴヤ学びのコンパスは以下の通りである。

【実現したい市民の姿】自由な市民として互いに認め合い、共に社会を創造する
【目指したい子どもの姿】ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける
【重視したい学びの姿】
★夢中で探究する　★自分に合ったペースや方法で学ぶ
★多様な人と学び合う
【どの学校でも大人が大切にしたいこと】
子どもは有能な学び手であると理解し、子どもの学びに伴走する
★一人一人の思いや願いを尊重する　★子どもと対話する
★子どもの自分なりのチャレンジを大事にする

昨年度までの努力点において本校が目指してきた子どもの姿は、ナゴヤ学びのコンパスの方針に沿っているため、今年度は昨年度までの成果を踏まえつつ、さらに児童の学びに向かう姿勢を高めていきたい。一昨年から継続している、「やってみたい」「考えてみたい」という思いを高める導入段階の工夫や、昨年度行った個別最適な学びを継続させていき、さらにその上に「協働的な学び」を高めていく。「協働的な学び」とは、友達の学びを知ることで相対的に自分の学びも深まっていくことと考える。つまり、自分の考えをもった上で、友達の考えや選択にも関心を寄せ、尊重し、協力して学びを深めていく、そんな「多様な人と学び合う児童」が育つ努力点研究を進めていきたい。

また、児童が進んで学びに向かうためには、教室が「安心・安全で幸せな居場所」であることが必要である。そのために、努力点研究の土台として日々の学級経営にも重点を置き、互いを認め合い、尊重し合える学級づくりも同時に進めていきたい。

Ⅲ　研究の内容

(1) 本研究で目指す児童像（令和６年度は①、②を継続しつつ③に重点を置く）

① 「やってみたい」という思いをもち学びに向かう児童

・　学習課題に対し、「これならできそうだ」「こう考えればいいかも」「不思議だな」「気になるな」と興味・関心をもち、自分事として考え、取り組むことができる児童。**【夢中で探究する児童】**

② 課題解決の方法を構築・選択して学びに向かう児童（個別最適な学び）

・　課題解決に向けた方法を自ら構築したり、選択したりして、自分の能力に応じた課題解決ができる児童。**【自分に合ったペースや方法で学ぶ児童】**

③ 多様な人と学び合う児童（協働的な学び）

・　課題解決の過程や振り返りの場面において、自分の考えを伝えたり、相手の意見を取り入れたりしながら、ゆるやかな協働性の中で自律して学び続けることができる児童

(2) 実践方法

目指す児童像の実現のために、授業実践と日常実践では下記の内容を中心に取り組む。

【授業実践】

他者といつでも関わり合いができる開かれた学習方法の工夫

【具体例】
・自分の選択や考えをタブレットに提出し、全体で共有する。
・自分がどのように課題を解決したいか、意思表示カードを活用する
・机の配置を変更し、友達との関わり合いがしやすいようにする。
・話型を使用し、友達との関わり合いがしやすいようにする。

【日常実践】

「話そう」「遊ぼう」「声かけよう」いつでも聞き合うことができる居場所づくりの具体的な取り組み

【具体例】
・共感的に聞きながら子どもと話す。
・子どもと遊んだり、子ども同士を遊ばせたりする。
・互いを気に掛け、優しく声を掛ける習慣をつける。

【事前・事後のアンケート調査】

４月・１月に全児童対象のアンケート調査を行い、児童の実態や目標の到達度をつかみ、次年度の実践に生かす。

(3) 研究の進め方（昨年度から変更した点があります。ご確認ください。）

○　授業実践の教科は自由。
○　各学年で同じ内容の実践を行うことができる。
○　事前・事後検討会は各学年まとめて一回でもよい。
○　授業公開は、各学年どちらかの学級のみでもよい。
○　最終報告書のまとめは各学年で１枚にまとめる。

Ⅳ　研究推進の組織

校長・教頭 ⇨ 努力点推進委員 ⇨ 全体会（全教職員） ⇨

○　部会

低学年Ｇ	◎１年・２年・・養護教諭	鈴木・研究主任
中学年Ｇ	◎３年・４年・校務主任	
高学年Ｇ	５年・◎６年・みどり	

※　上記◎：各部会を取りまとめる部会長
※　努力点推進委員会：部会長（低学年１名、中学年１名）、努力点研究主任、教務主任で構成

Ⅴ　今後の予定

○　４／１０（月）	努力点推進委員会 ・実践内容についての具体的な進め方についての検討 ・代表授業者の検討
○　４／１８（木）	努力点全体会
○　～４／３０（火）	実態把握（アンケート調査）、実践単元決定
○　５月～	実践開始
○　９／５（木）	全体授業事前検討会
○　９／１９（木）	全体授業・事後検討会
○　１０／２４（木）	中間検討会
○　１／３１（金）	公開授業終了、実態把握（アンケート調査）
○　２／７　（金）	最終報告書提出締切
○　２／１３（木）	努力点最終報告会
○　３／６（木）	努力点推進委員会（次年度へ向けて）

Ｒ５年度努力点　「進んで学びに向かう児童の育成」

各学年の発達段階に合わせた、目指す具体的な児童像

みどり	**「やってよかった」「みんながいてよかった」という思いを持つ姿** （言葉や態度、表情から）
低学年	**自分で選ぶことができる姿** （「これでやってみたい」「これは違ったからこっちでやりたい」といった言葉が出る。）
中学年	**自分に合った課題解決の方法を選択することができる児童** （「〇〇だから〇〇を選んだ」といった言葉が出る。）
高学年	**自分の選択したよさを振り返ることができる児童** （「〇〇を選択したことで～することができてよかった」といった言葉が出る。）

Ｒ６年度努力点　「進んで学びに向かう児童の育成」

各学年の発達段階に合わせた、目指す具体的な児童像

みどり	**「やってよかった」「みんながいてよかった」という思いを持つ姿** （言葉や態度、表情）
低学年	**伝えたり聞いたりすることができる姿** （「伝えて良かった」「聞いて良かった」という言葉が出る。）
中学年	**課題解決の方法を自ら考え、互いに学びを深め合う児童** （「友達の考えを聞いたり、見たり、話したりしたからできた」という言葉が出る。）
高学年	**他者の考えに関心をもち、比較してより良い考えに気付く姿** （「〇〇さんの考えを聞いたら自分の考えが変わった」「他のいい考えに気付いた」という言葉が出る。）

Ｒ６年度　努力点アンケート調査　　名前（　　）

① 「やってみたい」「こうするとできるかな」と自分の思いや考えをもち続けながら学習に取り組めていますか。

取り組めている　　ときどき取り組めている

あまり取り組めていない　　取り組めていない

② 授業中、必要なときに友達や先生と関わることができますか。

できる　　ときどきできる

あまりできない　　できない

③ クラスのみんなは、あなたの話を聞いてくれますか。

聞いてくれる　　ときどき聞いてくれる

あまり聞いてくれない　　聞いてくれない